# OB

NHK佐賀放送局　局長
1980年　電子工学科卒
緒方　浩之

私は昭和55年3月の工学部電子工学科卒業生です。卒業と同時に日本放送協会（NHK）に就職、初任地の松山放送局を振り出しに、東京、熊本、福岡、北九州、東京、福岡、そして今年6月の異動で佐賀放送局に着任しました。佐賀県唐津市の工業高校を卒業と同時に福岡工業大学に入学した時から数えると実に35年振りでの故郷勤務となります。思えば、高校卒業時には、まだ就職する自信はなく、でも目標があった訳でもなく大学進学を選んだものでした。しかし、学年が進むにつれ卒業後の進路に不安を感じていたある日、学生向けの掲示板に一枚の張り紙が目に留まりました。

それは当時の学長、森延光先生の発案で「第1級無線技術士資格取得」に向けた特別補習の案内でした。森学長は数ある大学の中で、国公立でも有名私立でもない、福岡工業大学の就職率を上げるには、資格取得が最大の武器になるとの方針で学生に呼び掛けられたものでした。数年先に就職を控え、すぐに受講申し込みをしたのを覚えています。特別補習の講師には、電気、電子、通信学科の先生方と時には森学長自らがあたられ、受講生も当初は十数人居ましたが、回を重ねるごとに一人減り二人減り最後には私一人になってしまい、講義も最初の頃は教室で行われていましたが、最後は私が先生の研究室に通う形になりました。

ところで第1級無線技術士の資格は、無線設備を持つ企業には必要なもので、取得すれば放送局や航空管制局などへの就職も夢ではないと森学長からも励ましていただきました。

当時の就職活動は夏場がピークで秋に試験だったと思いますが、夏の資格受験で合格の手ごたえを掴み就職活動と就職試験に臨んだ結果、資格取得とNHKへの就職を果たすことができました。森先生はもう亡くなりましたが、当時「艱難汝を玉にす」との教えも頂き、以来私の「座右の銘」になっています。NHKには技術職として入り、放送に関する技術業務を行ってきましたが、2度の東京勤務では「ニュースセンター」でスタジオ設備の運用・管理を長年担当したことから、様々な事件・事故・災害をはじめ選挙報道など公共放送の使命達成を技術の立場で支えてきました。1990年にはイタリアワールドカップサッカーの海外オペレーションの経験もしましたが、前任の福岡局では、アナログ放送から地上デジタルへの完全移行に向け、視聴者の方々にデジタル放送を確実にご覧いただくための推進担当として貴重な経験ができました。

今回の佐賀放送局では初めて技術を離れ局長と言う立場で地域の皆様に信頼され親しまれる放送局を目指しているところです。

## 2010年度 福岡工業大学同窓会育英金をもらって

**工学部電子情報工学科3年**

私は、高校教師になるために大学に入学し文武両道に努めています。父が交通事故で足が不自由になり、通院する毎日で収入がありません。そんな中、福岡工業大学同窓会育英金と出会い助けられたこの1年間悔いなく過ごせてきました。空手、サークル活動、バイトと幅広く社会貢献するための力を身につけるとともに、教師になるために必要な単位だけでなく、電子技術と情報技術を総合的に学びながら、様々な経験を積んでいます。

私は、ただ教師になりたいと思っているわけじゃありません。教師となって、子供たちが幸せに育っていける環境を作りたいと思っています。人間は集団の動物と言われています。人間が生活する集団を楽しく、住みやすい環境にするのか、対立して住みにくい環境にするのかは、その集団を構成する人々の対処の仕方で決まると思います。人々の多くは、楽しくて住みやすい集団に属したいとの希望を持つものと考えられます。そして、その目的を達成するためには、その集団を構成する人々がお互いに、そのための努力をすることが必要です。人々から「この先生になら安心して任せられる」という先生になりたいのです。1分、1秒無駄をしないように切れはし時間を有効利用し、大学生活で多くの知識を学ばせてもらっています。研究に研究を重ね日本の子供だけでなく、世界中の子供たちに幸せになってもらいたいです。子供は、大人より敏感で環境次第でその後の成長が大きく変わってきてしまう。だから、少しでも力になりたいのです。

夢とは、人に影響を与えるものだと考えています。自分の幸せばかりでなく、家族や友達を大切にしないといけないと、このように考えるようになりました。残りの1年間で、人と社会をつなぐ未来の技術を学びながら、人と人を結ぶ教師になります。

お力添えのおかげで、一心不乱にすることができました。ありがとうございました。

夢を夢で終わらせないために、これからも探求し向上させていきます。

**情報工学部情報工学科3年**

この度は、同窓会育英金を受けさせて頂き、有難うございました。数多くの応募の中から私を選び、支援いただいたこと大変うれしく感じました。私はもちろんのこと、家族一同感謝いっぱいの気持ちです。

お陰様で、無事充実した大学生活を送らせていただいております。授業料に対する不安感も少なくなりアルバイトばかりの日々でなく、これまで以上に有意義な学生生活を送ることができるようなりました。また、現在高校3年生の妹も無事受験を終え、本校の短期大学部に入学することとなりました。経済的な理由で短大を選びましが、少し余裕が出てきたことで大学への編入も短大の中で考えてみたいと両親と妹からも聞いております。このような場面でも育英金をいただけたことで両親にも余裕ができたからこそだと感謝ばかりです。こうした日々が送れるのも同窓会の方々からのご支援のおかげです。

今はいただいた育英金分を、奨学金で貯金し、大事にとっております。これからの就職活動と授業料のためです。いただいた育英金は、自分の将来に生かすためだけに使おうと決めました。

立派な社会人となるための就職活動もいよいよ本格化し、やる気に満ちています。

もしもこの育英金がなければまた来年度分の授業料のためとアルバイトばかりに集中してしまい、就職活動に集中できなかったかと思います。

また、いずれは大学へ恩返しをできるような社会人にもなりたいと考えております。私はこの大学に入り、とても変わりました。多くの素晴らしい方と関わることで自分が大きく成長したと感じております。そのことに対する恩返しを少しでもできればと考え学校行事の手伝いや、教授の手伝いとして後輩への少人数講義など積極的に行いました。今の私にはこのようなことでしか行動することができませんが、私を支えてくださった皆様への感謝を忘れずに社会人となってからも少しでも大学のため、後輩たちのために貢献できることがあればと考えております。

## 編集後記

雄飛第18号の原稿を考えている最中、1面でもお知らせしました松井先輩の大阪府知事当選のニュースが飛び込んできました。心よりお祝い申し上げます。（広報部）